

ふるいけじゅうたく

降井家住宅の詳細説明

○名 称 降井家住宅

○所 在 地 大阪府泉南郡熊取町大久保中二丁目1番1

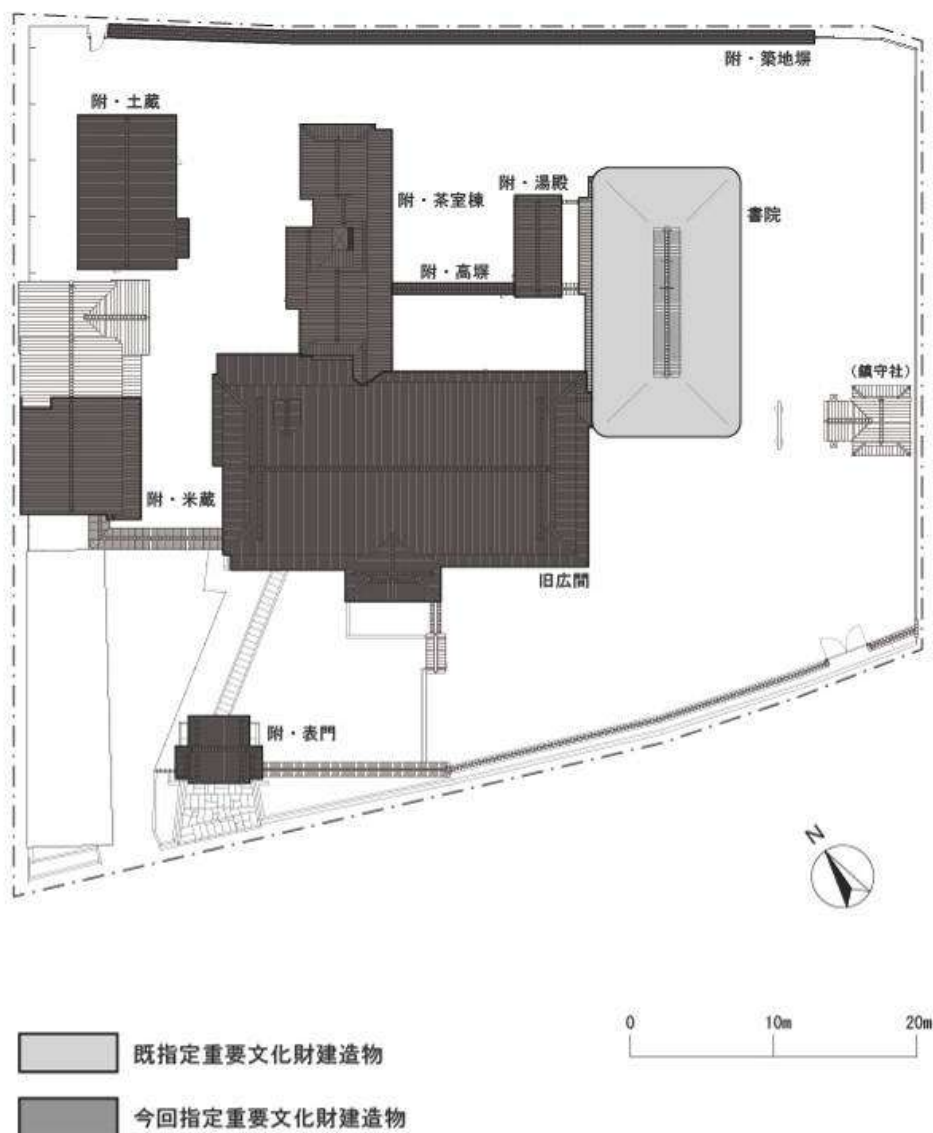
○所 有 者 個人

○追加指定される文化財 旧広間

附 指定※：茶室棟、湯殿、土蔵、米蔵、表門、高塀、築地塀
棟札、『分検宅地家相鑑定図』

※ 附 指定

単体では重要文化財にならないが、重要文化財建造物と一体で保存すべき建造物や歴史史料を指定する制度のことです。



降井家住宅 建物配置図

(1) 降井家住宅の概要

大阪府泉南郡熊取町に所在する降井家住宅は、江戸時代に熊取村の大庄屋を務めた降井家の屋敷です。敷地は熊取町の最西部、^{あめやまがわ}雨山川と住吉川に挟まれた平坦地に位置し、西方には粉河街道が通っています。

降井家は、岸和田藩の郷士代官や七人庄屋を務め、年貢の徴収や組頭の決定など、地域の行政を担った家柄です。敷地には、江戸時代に建てられた書院と旧広間を中心に、明治時代に整えられた茶室棟、湯殿、土蔵、米蔵、表門、築地塀、高塀などが残っています。

書院は、江戸時代の有力者の生活を伝える書院造の好例として、昭和 27 年に重要文化財に指定されました。その後、熊取町教育委員会による建造物・屋敷地の総合的な調査によって、書院に隣接する旧広間が弘化 4 年（1847）に建てられ、庄屋層の接客施設の姿をよく残すことが明らかになりました。今回の指定は、この調査成果に基づくものです。

(2) 降井家住宅の歴史

降井家に伝わる史料によると、降井家は遅くとも享禄元年（1528）には現在地に屋敷を構えていたと考えられます。戦国時代には和泉国の地侍として活動し、江戸時代には岸和田藩領の熊取村で郷士代官や七人庄屋を務めました。

江戸時代前期には書院が建てられ、中期には主屋、座敷、広間、書院、隠居所などが建ち並んでいたとみられます。天保 6 年（1835）の屋敷図には、西の粉河街道に面して主屋や表門、土蔵を置き、主屋の東側に縁座敷、広間、書院を連ねた広大な屋敷の姿が描かれています。

明治時代以降、屋敷地は縮小しましたが、明治 41 年（1908）頃に旧広間へ土間などを増築して主屋に改修し、書院を北へ曳家しました。あわせて湯殿、茶室棟、土蔵、米蔵、表門などを整え、現在の屋敷構えが形成されました。

(3) 追加指定される建物について

●旧広間

旧広間は書院の南西に位置し、縁で繋がる木造平屋建、入母屋造、本瓦葺の建物です。棟札から弘化 4 年（1847）の建立とわかります。当初は座敷と書院をつなぐ広間として建設され、東二列は南面にさやの間を備え、書院へ続く格式ある接客空間を構成していました。明治 41 年頃、西側に居室と土間を増築して主屋へ改修されました。江戸時代の庄屋層の接客施設と、近代における住まいへの変化をあわせて伝える貴重な建物です。

また、『分検宅地家相鑑定図』（明治 41 年作成）は、旧広間の主屋化、書院の曳家、土蔵・米蔵・表門等の再建状況を示し、現在の屋敷構えが形成された過程を具体的に伝えています。建物の変遷及び屋敷全体の構成を読み解く上で貴重であり、降井家住宅の歴

史的価値を補完する史料として、今回附指定されました。

●（附指定）茶室棟、湯殿、土蔵、米蔵、表門、築地塀、高塀

茶室棟は、主屋の北西に接続する附属屋で、茶室と呼ばれる六畳間、水屋に相当する三畳間などを備えます。

湯殿は、書院の西側に位置し、風呂場、脱衣場、洗面、便所を設け、棟木に磨き丸太やなぐり仕上げを施した天井など数寄屋風の意匠を随所に用いています。

土蔵は、敷地の北西隅にあり、文庫・道具蔵として使われた二階建の土蔵造で、広い内部空間を有しています。

米蔵は、主屋の西側に建つ平屋建の土蔵造で、内部には米俵を壁から離して積むための荷摺木が残り、米蔵としての機能をよく伝えています。

敷地の南西に建つ表門は、総ケヤキ造の一間葉医門で、本瓦葺の重厚な屋根を載せます。控柱に虹梁や組物を用いた社寺建築風の華やかな造りで、正門にふさわしい意匠をみせます。

湯殿と茶室棟をつなぐ高塀は、中庭を区画し、広大な屋敷地の景観を整えます。

上記の建築群は、明治 41 年頃に建てられたものです。

築地塀は敷地北辺を区画し、西側は明治時代中頃、東側は明治 41 年頃の建築と考えられ、広大な屋敷地の景観を整えています。

（４）今回の追加指定の意義について

旧広間は、江戸時代に座敷と書院をつなぐ接客のための建物として建てられ、明治 41 年に主屋へ改修された後も今日まで受け継がれてきました。既に指定されている書院とともに、泉南地域における庄屋層の接客施設を伝える遺構として、高い歴史的価値を有しています。

また、明治時代に整備された茶室棟、湯殿、土蔵、米蔵、表門、築地塀、高塀を附指定とすることで、江戸時代の建物を継承しながら近代に再編された大庄屋屋敷の全体像を、一体的に保存することが可能となります。



写真1 降井家住宅旧広間全景（南から）



写真2 降井家住宅旧広間全景（さやの間から座敷をみる） 提供：文化庁



写真3 降井家住宅表門（南西から）



写真4 築地塀（北から）